

The  
TIME  
is  
NOW

源流の郷

vol.02  
2022.08

全国源流の郷協議会







## 特色ある魅力的な源流の郷となるために

木曾川源流の里 木祖村は、木曾川の水の繋がりを絆に愛知県や岐阜県内の多くの自治体と経済交流を育んでおります。友好自治体提携を結ぶ愛知県日進市とは今年が30周年記念の年となり、将来を見据えて若い世代にヒノキ製品に触れ合える企画を実施しております。具体的には30周年記念事業として小学校新一年生にヒノキ箸を、保育園へはヒノキの間伐材を使った玩具を贈呈する予定であります。

また本年6月には愛知県名古屋市と木祖村とで森林整備協定を締結しました。森林資源の循環を通じCO<sub>2</sub>の削減や生物多様性、水循環の保全と地域の活性化を図り、共に発

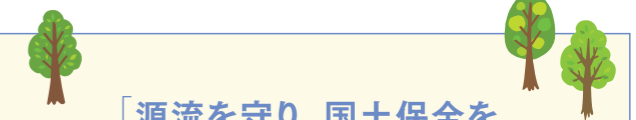
展することを目的としております。これらには下流自治体の森林環境譲与税も活用されており、木曾川上下流交流事業を通じて「源流域を守ることが下流域の安全と環境を守ることに繋がる活動」を続けた成果、特色ある魅力的な源流の郷づくりに繋がる取り組みであると自負しております。

今後も本冊子を通じて源流域の取り組みを全国へ発信し続けていく所存です。源流域の重要性が多くの国民の皆様にご理解いただき、協力が広がっていくように活動して参りたいと思っておりますので、この運動に合流いただきますよう心からお願い申し上げます。

全国源流の郷協議会  
副会長 唐澤一寛(長野県木祖村 村長)



源流域の自治体は森林保全や水源涵養という共通使命を担いつつ、それぞれが地域個性を活かした特色ある源流域となることが大切だ。



## 「源流を守り、国土保全を推進する議員連盟」総会を開催



## 「源流基本法」制定に向け意欲的に活動を加速

2022年5月、「源流を守り、国土保全を推進する議員連盟」の総会が開催され、役員人事案が承認された。「源流を守り、国土保全を推進する議員連盟」では、源流の危機は国土の危機という認識をもつ国会議員によって、国土保全と水源地保護を実現する「源流基本法」制定に向けた活動が進められている。源流域はその多くが分水嶺近くの豊かな森林地帯に存在し、まさに日本の環境保全の最前線でもある。「源流基本法」制定の実現によって、源流域を守る意識を全国的に高めていくことが期待されている。今回の総会では積極的な意見交換のほか、東京農工大学の宮林茂幸客員教授の講演などが行われた。

## 〔役員〕 敬称略

- 顧問：金子恭之、石田真敏、奥野信亮、関口昌一、世耕弘成
- 会長：細田博之
- 会長代理：山本有二
- 副会長：坂本哲志、堀内昭子、松山政司、山本順三、野上浩太郎
- 幹事長：後藤茂之
- 幹事長代理：御法川信英、田野瀬太道、小泉龍司、青木一彦、渡辺猛之、赤池誠章、中西祐介
- 幹事：宮内秀樹、藤丸敏、馬場成志、滝沢求、大野泰正、三木亨、高野光二郎、舞立昇治、足立敏之、佐藤啓
- 事務局長：森屋宏
- 事務局次長：中谷真一、井出庸生、木村次郎、中曽根康隆、高橋克法、堀井巖



源流域の水と森、その価値を広める

# OUR ACTION—観光・産業振興 唯一無二の価値を創る オンリーワン

源流域を守る価値を広く知ってもらうためにも、  
水や森を管理する自治体が魅力的であることは大切だ。  
源流域の豊かな自然こそ財産であるとして、  
地域のブランド化に積極的に取り組む2つの自治体を取材した。



## 美しい星空日本一

満天に降りそそぐ星を楽しむ東成瀬村は、1999年(平成11年)、環境省より「美しい星空日本一」に認定されている。



## 栗駒山荘

標高1000メートルを超える高地に佇む温泉宿泊施設。村から管理を受託した企業が運営。珍しい強酸性泉質「明礬緑礬泉」で、露天風呂からはブナの原生林を見下ろせる。

## 仙人米

きれいな水と肥沃な土壌で美味しい米が育つ東成瀬村。そこから食味値75以上、2ミリ以上の大粒のみを選定し「仙人米」としてブランド化している。



## 秋田県東成瀬村

# 地域おこし協力隊と戦略的に協業 新しい視点で村の魅力を発信

奥羽山脈の麓に位置し、栗駒国立公園を擁する東成瀬村。日本では珍しく、国立公園内に宿泊施設「栗駒山荘」があり、標高1000メートルを超える露天風呂からブナの原生林を見下ろす眺望は圧巻。この大自然を楽しみに東成瀬村を訪れる人は多い。森や水の美しさはもちろん、過去に「美しい星空日本一」に認定されたことも東成瀬村の大きな強みだ。企画課 主事 福田凌央さんは東成瀬村らしい自然を活かした観光施策が大事だと語る。

「他にはなく東成瀬村にあるもの、それがこの大自然です。村としては自然を活かした施設やアクティビティをもっと企画していくつもりです」

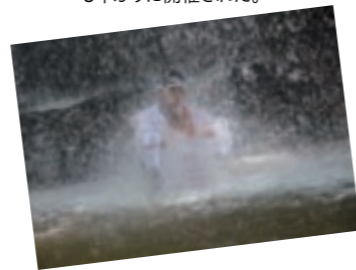
山や温泉好きの年配層だけでなく、今後は幅広い年代に村をアピールしていきたいと考えている。そこで若い世代の発想に期待を寄せ、新しい協業が始まっている。

「現在、村には地域おこし協力隊のメンバーが21人います。首都圏から移住してきた若い世代の人たちで、この人数は秋田県では最多です。村では昨年設立されたIT企業と連携し、村の課題解決のための取り組みをしています。雇用から移住、定住を促し、若い世代の新しい視点で自然豊かな村の魅力をさらに発信していきたいと思っています」



## 東成瀬テック ソリューションズ(株)

村と共同でIT企業を設立し、地域おこし協力隊の運営業務を受託。村の課題をプロジェクト化し、地域おこし協力隊が村と連携して課題解決を行う仕組みを作った。



## 仙人修行

1984年より続く東成瀬村の観光イベント。断食や滝行などの企画のユニークさが受け全国から参加者が集まる。今年(2022年7月)は3年ぶりに開催された。

## 須川湖

紅葉の時期は一段と美しい須川湖。このような雄大な自然を強みに観光施策を考案する。



## 愛媛県松野町

# 「森の国」でブランド化 アウトドアコンテンツの聖地を目指す

行政ブランディングの先駆けといえる愛媛県松野町。1991年(平成3年)に「森の国」というキャッチフレーズを決め、以来30年以上、森の国・松野町としての政策を進めてきた。松野町の考え方は極めてシンプルだ。初代町長・岡田倉太郎氏が残した「この森にあそびこの森に学びて」という言葉を軸にすえ、歴代町長がこの考え方を継承。ぶれることなく、さまざまな政策が行われている。ふるさと創生課 井上靖課長は「山、森、川は国民の財産。だから自然保護と開発のバランスをとったまちづくりが大切。この考え方が職員の中に叩き込まれています」と語る。「森の国」を冠する建物やイベントも多く、町内外に自然豊かなまちである印象を効果的に与えている。町の考え方がぶれていないことで、民間企業との連携も方向性に迷うことがない。滑床渓谷に佇む「水際のロッジ」を運営する会社、(株)サン・クレアとは一緒にまちづくりを行う。現在、廃校をリノベーションして観光の新名所とするプロジェクトが進行中だ。

「松野町が目指すのは商業観光ではなく公益観光。自然に過度な負担をかけないことが原則です。山、森、川に恵まれたこの自然環境を生かし、森の国からさらに一歩進み、今、松野町はアウトドアコンテンツの聖地になることを目指しています。訪れた人に自然を楽しみながら森や水を守る意味に気づいていただく。それが源流域を守る松野町のミッションだと思っています」



## 水際のロッジ

第三セクターなどが運営してきた「森の国ホテル」別館を2018年、(株)サン・クレアに売却。「水際のロッジ」として生まれ変わった。



## アウトドアアクティビティ

キャニオニング、自転車、カヌーなど森と水を存分に楽しめるコンテンツを多く揃える。



## 滑床渓谷

四万十川支流の目黒川上流に広がる大渓谷。花崗岩の滑らかな河床が特徴。松野町が守る自然の象徴でもある。

## 新たな観光の 仕掛け

JR予土線と協力し、鉄道とアウトドアを組み合わせた仕組みをインバウンド向けのコンテンツとして展開予定。



## 農作物のブランド化

水がきれいな松野町の米は食味値が90点近くある美味しい米が多い。そこで2022年秋より町内の米を高付加価値米としてブランド化し、戦略的にPRしていく。また桃は愛媛県内で価値を醸成することを優先し「桃といえば松野町」と言われることを目指す。

## 初代町長の言葉

滑床の自然を愛し、滑床観光に寄与した、松野町初代町長 岡田倉太郎氏が残した言葉。





〔流域のまちづくり〕

## 河川×里山×自転車の組み合わせで 新たなまちづくりに挑む

多摩川河川敷特設コースにて  
オフロードレース「稲城クロス」を開催。  
稲城市は実行委員会に参画し、  
積極的にイベントに関わる。



稲城市を流れる三沢川では  
桜回廊が整備されている。  
稲城市ではシェアサイクルも  
充実しているので、  
この桜と里山を巡るサイクリングコースが  
観光客に人気だ。

「稲城観光未来プロジェクト」の一環として、  
稲城市観光協会と大学生が  
協働で制作したポスター。  
稲城市の自然とサイクリングを  
地域の個性として表現した。



### 流域の強みを活かして“自転車のまち”を目指す

今、自転車を活用したまちづくりに取り組む自治体が増えている。特に川や湖などの水辺をもつ自治体と自転車との相性は良く、自然環境を活かしたサイクリングロードの整備が全国各地でおこなわれている。「源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟\*」に加盟する東京都稲城市でも「自転車のまち稲城」を掲げ、積極的な取り組みが展開されている。産業文化スポーツ部観光課の藤間貴大さんは次のように語る。「稲城市では、2016年より多摩丘陵の地形を活かした自然環境と自転車を組み合わせたまちづくりをおこなっています。それまではナシやブドウなどの農産物がPRの中心でしたが、自転車という切り口が加わったことで、稲城市の新たな魅力発見に繋がっています」

多摩川河口から東京羽村市まで続く「多摩川サイクリングロード」は稲城市内では全区間舗装済み。2021年には

民間企業と連携し、ロード沿いにサイクルカフェをオープン。サイクリストの憩いの場所を作った。また年に2回、多摩川河川敷でオフロードレース「稲城クロス」を開催。人気イベントとして育ちつつある。さらに稲城市では多摩川沿いだけでなく、市内を流れる三沢川沿いも桜回廊と里山風景を巡るサイクリングコースとして提案。都市の便利さと自然の豊かさに自転車というツールをうまく組み合わせた情報発信をおこなっている。

サイクリングロードとして河川を整備することは、観光誘致やまちおこしになるだけでなく、川の氾濫など防災面での効果も期待できる。河川を活かしたまちづくりは、流域の自治体ならではの強みと言えるだろう。里山が広がる自然にこそ価値があると考えられる稲城市の取り組みは、河川と自転車という組み合わせに大きな可能性を感じさせてくれる。

\*2017年(平成29年)設立。「全国源流の郷協議会」と想いを同じにする河川流域の自治体が加盟する。「源流の危機は国土の危機」という認識のもと活動している。

# 第13回 全国源流サミット開催!!

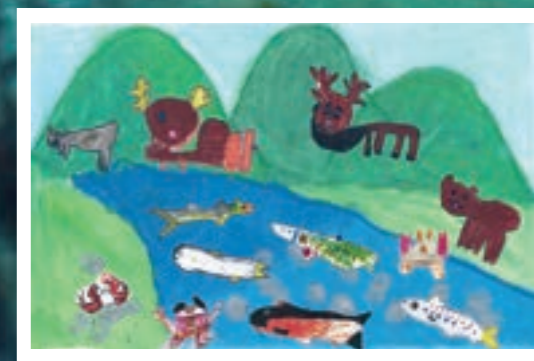
宮川源流  
三重県大台町  
2022年10月26日(水)

## 源流域の魅力を広く発信

年に一度、「全国源流の郷協議会」加盟自治体が一堂に会する全国源流サミット。今年は10月26日にオンラインにて開催予定だ。開催地は三重県大台町。国土交通省より「水質が最も良好な河川」として選定された一級河川・宮川の源流域に位置する源流の郷である。サミットでは源流域の自然・文化の保全や活用、上下流域交流のあり方などについて、有識者を招いてディスカッションが行われる。源流域の価値を再確認し、その魅力を広く社会に発信するための有意義な場となるだろう。

### CONTENTS

- 10:00 首長サミット
- 12:00~ 昼休憩
- 13:00~ 源流サミット
  - ・オープニング
  - ・基調演説
  - ・事例報告
  - ・パネルディスカッション
  - ・クロージング
- ~16:00 終了予定



大台町の宮川保育園の園児が源流をイメージして描いたもの。今回の源流サミットのチラシや記念品に活用予定。



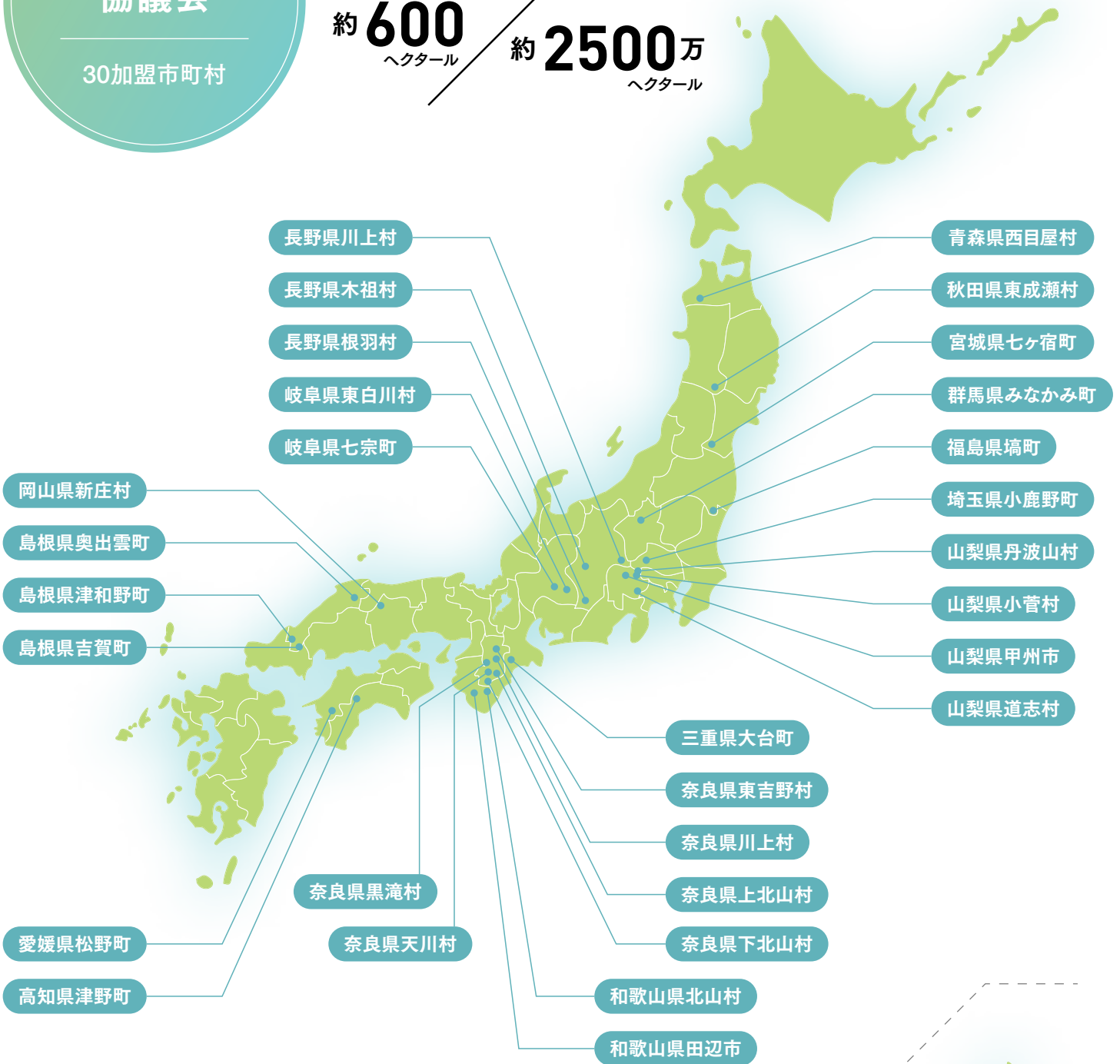
# 全国源流の郷 協議会

30加盟市町村

日本の森林総面積に占める  
源流の郷が保有する森林面積

約 **600** 万  
ヘクタール

約 **2500** 万  
ヘクタール



## 源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟 (14加盟市町村)

- 東京都稲城市
- 東京都狛江市
- 長野県南木曾町
- 長野県木曾町
- 長野県大桑村
- 長野県上松町
- 長野県塩尻市
- 長野県白馬村
- 長野県小谷村
- 奈良県御杖村
- 奈良県十津川村
- 奈良県野迫川村
- 三重県亀山市
- 高知県須崎市

2022年8月現在

全国源流の郷協議会 事務局

源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟 事務局

小菅村役場 源流振興課 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4698 TEL.0428-87-0111

表紙写真：宮川上流（三重県大台町）